

色と時間知覚の関係性

名列番号：060 森 郁彌

1. はじめに

私たちは「時間」というものを、その時々により長く感じたり短く感じたりする。例えば同じ 90 分間でも、講義を受けている場合とテストを受けている場合とでは、後者の方が早く時間が経つように感じる人が多いだろう。今回はそのような時間感覚の違いが、そのとき見ている「色」によっても生じるのかどうかを調べてみた。

2. 心理的時間

まず、心理学における時間（心理的時間）について少し説明しておく。心理的時間は時間知覚と時間評価に分かれ、前者は比較的短い時間（数秒～数分）、後者は比較的長い時間（数十分以上）について扱う。自主課題研究という限られた時間の中では時間評価を調べる時間を確保するのは難しいと考え、ここでは時間知覚を用いることとした。

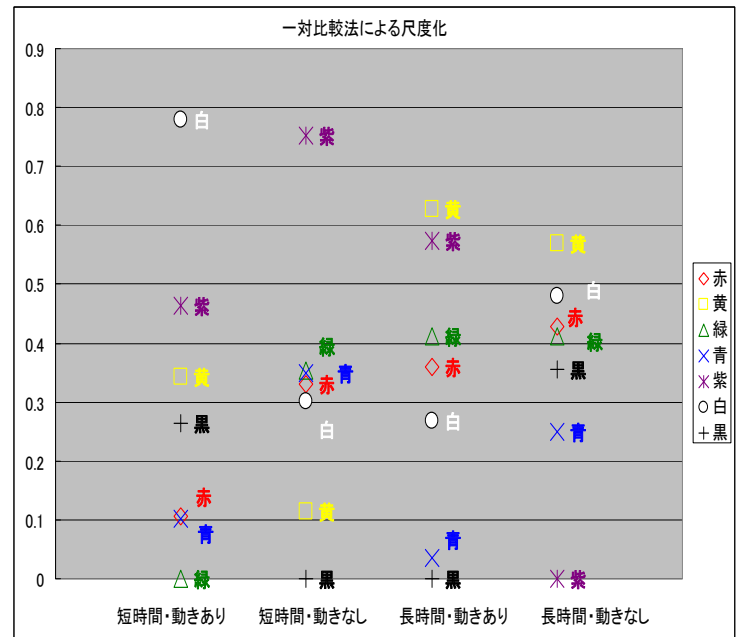
時間知覚では充実時程が空虚時程より長く感じる事が過去の研究より分かっている。例えば音を聞くと、音程が動くときの方が音程が一定のときよりも時間を長く感じるといった具合である。

3. 実験

色の付いた二つの四角形を順に提示し、どちらが長く提示されたかを答えてもらう。色の種類は白・黒・青・紫・緑・黄・赤の 7 色を用いた。提示時間は前後どちらも同じとし、その時間は 0.5 秒・2.0 秒の二パターンである。また提示する四角形について静止・横に移動の二パターンを用意
よって 7 色のうちどれが長く感じたかを「短時間・動きあり」「短時間・動きなし」「長時間・動

きあり」「長時間・動きなし」の 4 つの条件下で一対比較法により調べる。

4. 結果



5. 考察

結果を見ると、全体的に紫・黄が比較的長く感じられ、黒・青が比較的短く感じられているようである。これは非日常的で刺激のある紫・黄が充実時程を生み出し、日常的な黒・青が空虚時程を生み出したと考えられる。色以外の実験変数による差はあまり見られない。

6. まとめ

今回の実験により、色によって時間知覚に差があるであろうことは分かった。しかし、まだ被験者が少なく確証的ではないので、今後被験者を増やしたり、また実験変数を減らしたりしてデータを充実させていけたらいいと思う。